

長尾の歴史(2)

～弥生末～古墳時代編～

【3世紀～6世紀】

1 当時の「長尾」の範囲

- ・現、多摩区長尾の大部分は、多摩川の氾濫原で、人の住めない湿地帯
- ・「長尾」は、現在の宮前区神木(=旧長尾本村)+長尾の山
- ・多摩区長尾・宮前区神木・上作延・高津区下作延への地域に広がる。

2 遺跡の集中する「長尾」の山

- ① **東高根遺跡(=森林公園)** ……1970. 空地開発で発見(全面保存)
 弥生時代末～古墳時代の集落跡と。(住居150軒確認) 多摩川流域の土器と谷一カキ水を利用した水田
 ・この時代「拠点集落」の可能性(平安時代は刀ヅク)
 ……() 東の高根建設で発見(消滅)
- ② **下原遺跡**
 ・縄文晩期の巨大集落+墓地
 ・弥生時代の土器も出土
- ③ **緑ヶ丘壘園遺跡**
 ・大規模な環壕集落(消滅)
 ・弥生時代後期
 ・深さ1m以上、幅2m程V字型の堀
 ・北側、多摩川の掛け橋に、壘園全域にわたる可能性
- ④ **長尾鯉坂遺跡**
 ……1977. 長尾小学校建設による道路工事で発見(消滅)
 ・弥生時代後期の墓地
 ・有力家族(=王一族)の墓で、「方形周溝墓」の墓(印小、約13号) 1号→長尾11m 2号→長尾20.53m

⑤ 久地伊屋之倉遺跡

… 1983. マンション建設中に発見。調査後消滅

弥生時代後期の墓地(4世紀中ごろ) 古墳時代

2基の方形周溝墓 1号…長辺13.5m 2号…長辺20.5m 3号 ? (円墳、下りに破壊されたため埋没不能)

東海地方系9弥生土器出土
 古墳時代前期の古墳(円墳)(4世紀末ごろ)
 長径17m 高さ3.2m. 盛り土

・材主体部一室 打形木棺(長さ7.8m. 幅50~70cm)

副葬品 ①ガラス小玉(赤) ②コハク小玉(白) ③メノウ象玉(白) ④コハク勾玉(白) ⑤鉄鍬(鉄、失じり)

・才主体部一(室) 打形木棺(長さ4.4m. 幅60~90cm) 副葬品なし

・才主体部、死者の頭、口、腕、二つにわたる土器 (東海地方系9弥生後期のもの ← 原型は朝鮮の七口刀)

⑥ 箱荷塚古墳

… 現存。一度計画工事中中止

60m(30m?) 円墳(?) 長径23.5m 高さ2.9m

() 年 採り立壘園工事の際、馬の八二7出土

⑦ 津田山古墳

… 1963年、セメント会社の採取中に1号墳破壊。1964年採り立壘園建設中に2号墳破壊。

(5世紀末～6世紀初めの円墳)

・1号墳… 長径26m, 高さ2.7m. 三枚に盛り土

・2号墳… 長径29m. 高さ3.3m. 二枚に盛り土

※ どちらも周溝(円形に凹む)で、幅5.8m, 深さ1.5~1.6m

その他=まわりの地域=

⑧ 日向古墳 …… 1978年、近くの横穴墓群の調査で発見。現存

6世紀末ごろ、円墳。長径30m, 高さ4.5m.

円筒埴輪が出土している。人物埴輪も発見。

⑨ 長尾古墳 (現存) 径11m 高さ2m 円墳(未調査)

⑩ 上作延南原古墳 (現存) 径16.3m. 高さ2.5m. 円墳(未調査)

環濠集落(弥生時代末~古墳時代)

方形周溝墓(王族墓)
(弥生時代末~古墳時代)

方形周溝墓(王族墓)
(弥生時代末~古墳時代)

古墳(古墳時代初)
4c末

古墳 5c末~6c初

古墳 6c末

古墳 6c末

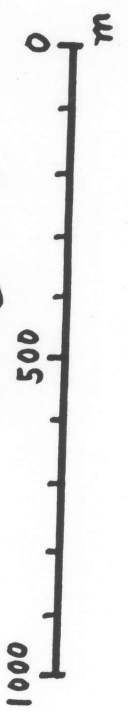
平瀬川

多摩川

高津

古東海道

高

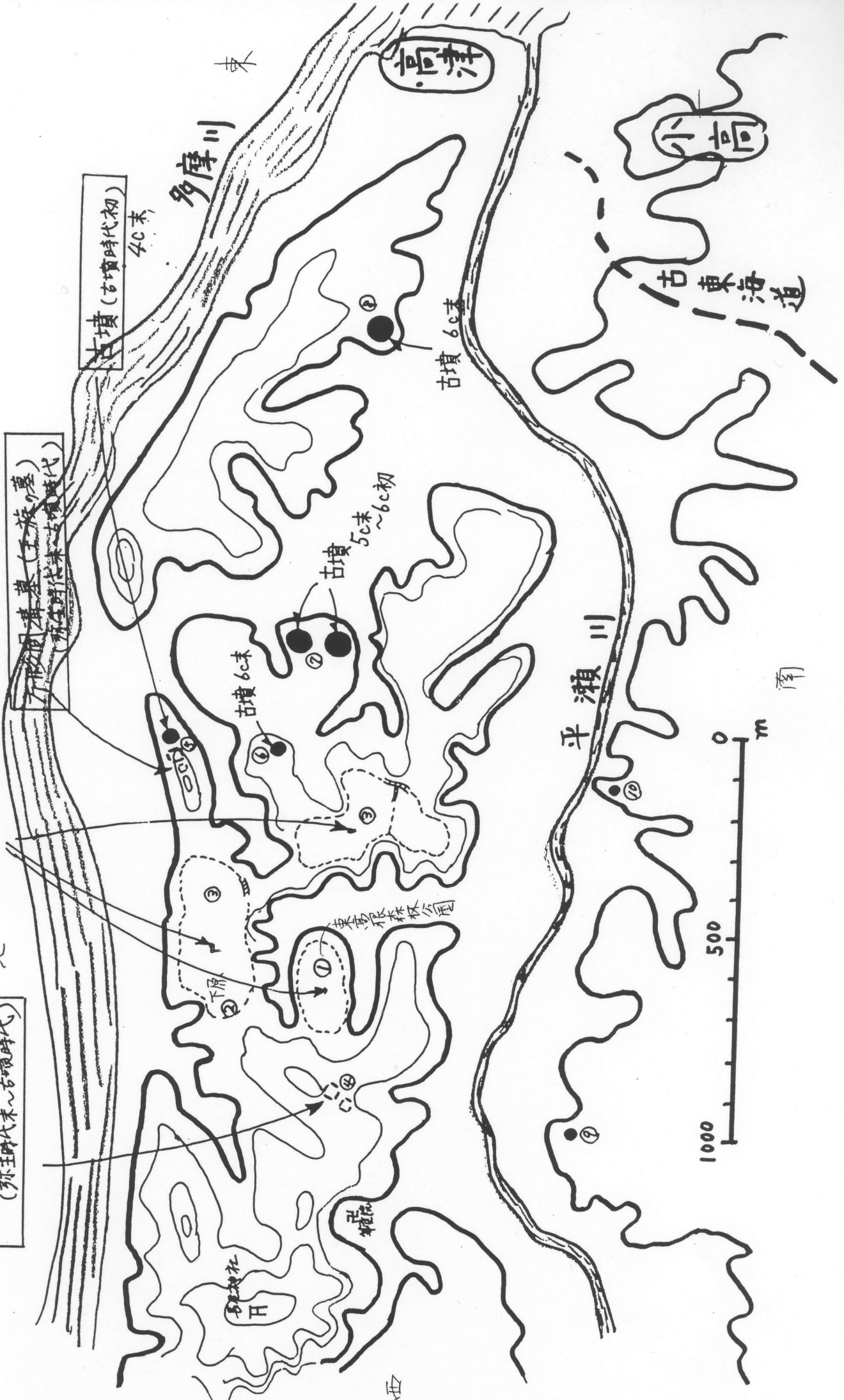


北

南

東

西



長人伝の富殿? 巨大柱穴群

吉野ケ里から弥生最大級の建物跡

県教委が見解

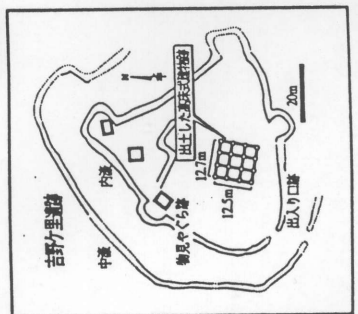
13メートル四方の高床構造



国特別指定「吉野ケ里遺跡(神護寺)」を発掘調査して、弥生時代の第一環濠(かどろ)環濠から見つかった柱穴について、弥生時代最大級の高床式建物跡だとしている。柱穴はこれまで6個確認されていたが、遺跡に埋められたものを合わせると、柱の配置から縦横約13メートルの正方形の建物で「富殿が築造」とされており、弥生の遺跡探査や当時の社会情状を窺うことが期待されている。

吉野ケ里遺跡跡の柱穴=25日午後、吉野ケ里遺跡跡

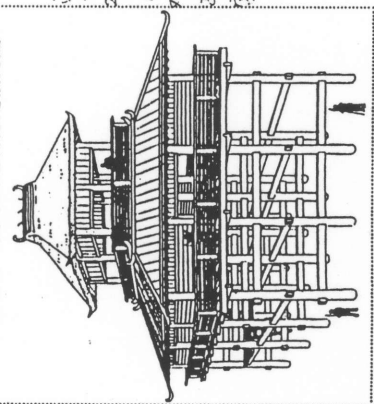
推定される柱の配置は縦横各4個で、その間を環濠。床面積は約13平方メートル。柱の配置は40センチメートル間隔で、遺跡の中心に位置する。弥生時代の高床式建物は、これまで「王の富殿」と呼ばれる建物で、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。弥生時代の高床式建物は、これまで「王の富殿」と呼ばれる建物で、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。



弥生時代は弥生文化の中心地として、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。弥生時代の高床式建物は、これまで「王の富殿」と呼ばれる建物で、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。

弥生時代の高床式建物は、これまで「王の富殿」と呼ばれる建物で、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。弥生時代の高床式建物は、これまで「王の富殿」と呼ばれる建物で、吉野ケ里遺跡跡(吉野ケ里)跡(床面積約12平方メートル)と推定される。

「卑弥呼の館」ほつぷり



吉野ケ里遺跡跡の高床式建物推定復元図

吉野ケ里遺跡跡の最大級建物 二重三層、高さ17メートル

弥生時代最大の高床式建物跡(吉野ケ里遺跡跡)で、高さ17メートル、二重三層の建物跡が確認された。この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。

この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。

閉鎖的な 特異構造

権力者が 祭式儀礼

この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。

この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。この建物は、弥生時代の最大級の建物跡と推定されている。